

「川上」と「川下」を結んで繋ぐ

木造建築物に取り組む姿勢

従来、ほとんどの公共建築物は、鉄筋コンクリート造を基本とした安全で丈夫、そして燃えない構造物として全国一律に建設されてきた。一方、木造建築は、日本の伝統的な建築様式として、気候風土、地域文化などと呼応しながら、社会システムの中に脈々と受け継がれ日本特有の建築文化として定着している。

公共建築の木造化を進めるにはこのような二つの建築の背景を十分理解した上で、利用者から設置者、設計者、施工者までが一貫した木造に対する共通理解を持って取り組むことが大切である。

木造建築に求められる課題

自然界で育った木材を用いる木造建築は、工業化され規格化された非木造部材とは異なり、耐久性や安全性が材料一つ一つの品質によって左右される。木材の産地や流通形態、製材工程などによって品質は様々であり臨機応変の対応が必要となる。

そのため、木材流通の川上から川下まで、つまり生産者から製材・加工業者、発注者、施工者、設計者までが木を使うことについての情報を共有し、木の建築づくりのための地域ネットワーク、社会システムを再構築することが求められる。

富山県産材の利用促進

富山県産材は、建築用材としての利用を促進することで流通を促し、量を確保し、価格の安定や品質の向上に繋げていくことを目指している。

「質」については、厳しい自然環境の中で育つ富山県産材は、十分な管理のもとで間伐や枝打ちを適時適切に行なう必要がある。労働力不足等から必要な管理が滞る森林も多く、安定した品質の用材確保の面でさらに改善を図っていくことが求められる。

「量」では、建築用材の伐採時期は水の上がらない秋口から冬が最良だが、富山県では積雪期と重なり出荷量にも限界がある。また、公共建築物に県産材を使用したいと考えても、役所の予算の仕組みや発

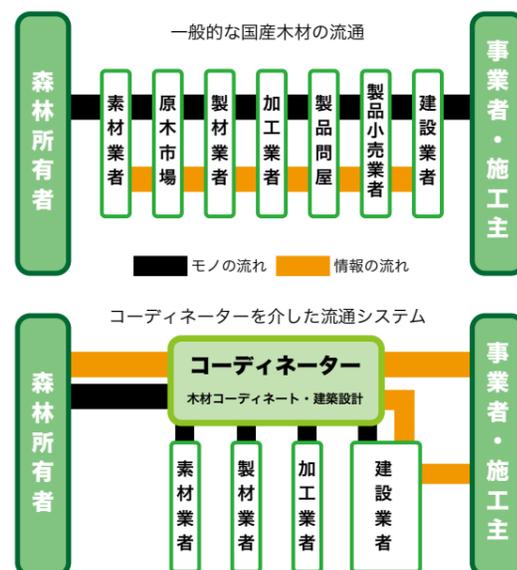
注スケジュールから見て、適材を伐採し製材、乾燥、出荷の手順を連動させていくことに課題があり、発注側での工夫も必要である。

「価格」については、安定した注文が見込めないことから常備品や在庫品が少ないため、規格（サイズ）や等級、出荷数量などによって価格が決まる「時価相場」になっているのが現状である。価格安定のためには、県産材を大いに使用することが最も大切であり、このことを通じて量を確保し、品質の向上に努めていかなければならない。

県産材を活用するための今後の取組み

県産材がこのような課題を解決し、市場が求める質と量が確保され安定した価格の建築用材として広く流通していくためには、以下のような取組みが考えられる。

①川下では、県内公共建築物の木造化を促進し、可能な限り県産材を使うことにより需要を喚起すること。②川上では、木材生産者（伐採～製材）が安心して生産し在庫できる受注情報システムの構築と資金支援の制度化を進めること。③企画・計画（行政・発注者）→設計→施工→材料供給といった川上から川下までの連携を総合的に支援できるコンサルティング組織を立ち上げること、などが有効な手法である。



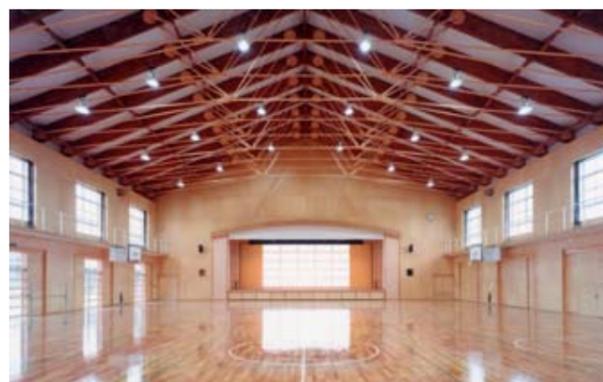
用途別 事例研究



ランチルーム



特別教室



体育館

市当局や学校、地域住民とのワークショップにより、木に囲まれた温かな学園空間づくりが目指された。その作業の中から、一部の屋根は燃え代設計による木構造とし、大断面集成材の特徴ある架構を実現した。また、特別教室棟は山形トラス構造とし、木構造を見せることで児童が森の木々の中にいるような雰囲気を出している。更に、ランチルームと体育館では集成材とスチールタイバーによるハイブリッド張弦梁構造により大空間を確保し、ランチルームは曲面屋根をそのまま内部に見せる工夫や、体育館では構造材のデザインにより繊細で活動的な空間が生まれた。

事業主体: 砺波市
 施設用途: 小学校
 建築地域: [用途地域]第一種中高層住居専用地域 [防火地域]指定なし
 工期: 2000年8月~2002年2月
 構造: 鉄筋コンクリート造一部木造
 規模: [建築高]14.4m [軒高]8.9m
 面積: [建築面積]15,593m² [延床面積]7,848m²
 [敷地面積]24,000m²
 外部仕上: [屋根]洋瓦葺き一部アスファルト防水 [外壁]薄付仕上塗材E コンクリート打放地下地 [開口部]アルミサッシ
 内部仕上: [床]天然木フローリングt18(カバザクラ) [腰壁]EP-G塗 [壁]EP-G塗 [天井]岩綿吸音板t12
 使用木材: ペイマツ集成材(150m³)、カバザクラフローリング(5,770m²)
 設計: (株)創建築事務所
 施工: [校舎棟]砺波工業・鍋田工業共同企業体 [特別教室棟]鷹栖建工・市堰建工共同企業体 [体育館]砺波工業



メディアギャラリー



講堂



施設全体図

埼玉県熊谷市で建設中の埼玉県農業大学校は、「木質感、木のぬくもり、仕上げ材としての素材感を五感で感じるデザイン計画」としている。基本構造は埼玉県産のスギ材を使った木造とし、学生寮の棟では柱梁に製材を使った在来軸組工法、比較的大きなスパンとなる教室や食堂の棟では大断面集成材と金物によるラーメン架構、非常に大きなスパンとなる講堂の棟では鉄筋コンクリート造と大断面集成材のトラス梁による混構造を採用した。本館施設は全体で約7千3百㎡に及ぶため、木造部分を千㎡以下に分節し鉄筋コンクリート等の耐火構造部で接続している。

事業主体: 埼玉県
 施設用途: 専修学校・寄宿舎
 建築地域: [用途地域]都市計画区域内指定なし [防火地域]指定なし
 工期: 2012年10月~2013年8月
 構造: 木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造2階建て
 規模: [建築高]9.34m [軒高]8.84m
 面積: [建築面積]6,544.63m² [延床面積]17,303.28m²
 [敷地面積]129,727.77m²
 外部仕上: [屋根]t=0.4ガルバリウム鋼板(素地)壁はゼ葺 [外壁]コンクリート打ち放し、窯業系サイディングの上、外装薄塗材(Si) [開口部]アルミサッシ
 内部仕上: [床]t30県産材スギ板直張、UF塗り他 [壁]t12県産材スギ羽目板張、UC塗り他 [天井]t12県産材スギ羽目板張、UC塗り他
 使用木材: 埼玉県産スギ材(さいたま県産木材認証制度等により県産材であることが認証または確認された木材)
 設計: [基本設計](株)日総建 [実施設計](株)三四五建築研究所
 施工: (株)島村工業他
 木材供給: 埼玉県森林組合連合会の協力を得て民間取引による供給



東側外観



吹き抜けのあるリビング、和室手前にペレットストーブ



遊戯室

情緒面で大切な幼児期を、良い影響を与える木造空間で育てたいという保護者からの期待が圧倒的に大きく、木造の園舎として計画した。伝統的町並みの隣接地に立地し、地区のランドマーク的役割を担うことから、外観は木、石、左官で構成し、入口部分には木のぬくもりをもった「塔屋」を設置している。内部の遊戯室では、大きな樹の下で子供たちが遊び回ることのできる回遊導線をデザインし、幼児の活気ある活動を支えるとともに、木の匂い、温もり、手触り、柔らかさを全身で体感できる木造空間を提供している。

事業主体：社会福祉法人 和田保育園
 施設用途：保育園
 建築地域：[用途地域]第1種中高層住居専用地域 [防火地域]指定なし
 工期：2010年8月～2011年3月
 構造：木造2階建て(在来軸組工法)
 規模：[建築高]7.24m [軒高]5.84m
 面積：[建築面積]803.39m² [延床面積]834.04m²
 [敷地面積]4,446.79m²
 外部仕上：[屋根]カラーGL鋼板瓦棒葺き [外壁]タテ羽目板張、サイディング張 [開口部]アルミサッシ
 内部仕上：[床]地産産スギフローリング張、長尺塩ビシート貼
 [腰壁]地産産スギ緑甲板張 [壁]紙クロス貼 [天井]化粧石膏ボード張
 使用木材：スギ、ヒノキ、ベイマツ
 設計：(株)GA開発研究所
 施工：市堰建工(株)
 木材供給：市堰建工(株)



1階保育室前廊下



浴室、ヒノキの内装とサワラの浴槽、床は浴室用コルク

計画当初、施主の理想は多世代が共生できる長屋のような家を創ることであった。「最初から計画を大きくすると失敗する」とのアドバイスもありデイサービスに特化しスタートした。施設は木造とし、環境問題にも理解を深める中、県産材を使用することやペレットストーブの導入が考慮された。床材にも県産のスギを使用することで、感触が柔らかく床暖房がなくても足が冷えることはない。反面、傷がつきやすいことから、椅子の足にクッション材をつけるなど工夫している。オープンから2年が経過し、利用者の要望に応え宿泊できる部屋を4室増築している。

事業主体：(有)まいけ
 施設用途：福祉施設(富山型デイサービスセンター)
 建築地域：[用途地域]第1種低層住居専用地域 [防火地域]指定なし
 工期：2009年8月～2010年1月
 構造：木造2階建て(在来軸組工法)
 規模：[建築高]6.9m [軒高]6.1m
 面積：[建築面積]254.77m² [延床面積]274.64m²
 [敷地面積]998.79m²
 外部仕上：[屋根]カラーGL鋼板、立はげ葺き [外壁]腰：県産スギ板貼
 保護着色塗料(リボスタヤ)、上部：窯業系サイディング弾性
 リシン吹付 [開口部]アルミ樹脂複合サッシ複層ガラス
 内部仕上：[床]構造用合板t28下地県産スギ板t15貼りSオイル仕上
 [壁]せつこうボード下地クロス貼り
 [天井]せつこうボード下地クロス貼り
 使用木材：ヒノキ、県産スギ、国産スギ(県産材48.3m³、構造・下地材
 35.4m³、造作材3.9m³、フローリング4.0m³、その他国産材
 20.9m³)
 設計：上田建築設計事務所
 施工：(株)頼成工務店
 木材供給：野村木材(株)



南側外観、腰板は県産スギ



南西側外観



玄関・風除室



ホール・受付

この施設には利用者をやさしく迎え入れるような表情を持ち、若い世代の母親たちにもなじみやすい外観が求められた。このことから外壁の仕上げを二層に分け、屋根を曲面形状にすることにより高さが強調されないよう考慮している。また、室内は子供たちが安心して診察を受けられるよう、自然光を積極的に取り入れ、明るく落ち着いたある待ち、診療空間を提供している。そして、構造は親しみやすいシンプルな木造架構を採用し、見える軸組みや腰壁を板張りとするこにより、木の手触り、柔らかさを実感できる子供のためのクリニックを意図している。

事業主体: Hこどもクリニック
 施設用途: 診療所
 建築地域: [用途地域]第1種住居地域 [防火地域]指定なし
 工期: 2000年5月~2000年10月
 構造: 木造2階建て(在来軸組工法)
 規模: [建築高]6.50m [軒高]6.35m
 面積: [建築面積]170.47m² [延床面積]186.42m²
 [敷地面積]670.27m²
 外部仕上: [屋根]カラーGL鋼板立ハゼ葺き [外壁]タテ羽目板張、サイディング張 [開口部]アルミサッシ
 内部仕上: [床]フローリング張、長尺塩ビシート貼 [腰壁]スギ緑甲板張 [壁]ビニールクロス貼 [天井]ビニールクロス貼
 使用木材: スギ、ケヤキ、ベイマツ
 設計: (株)GA開発研究所
 施工: 近藤建設(株)



外観



内部



建築中の写真(正面底部)

本建築のような比較的規模の大きい歯科医院の場合、医院として十全に機能するプランは複雑となり、木造で作ろうとしても構造上の整合性を見つけることが難しく、多くの場合は鉄骨造や鉄筋コンクリート造になることが多いと思われる。しかし、木造の特性を理解した上で構造設計にのぞめば木造建築も十分可能であり、耐震性や省エネ性を始めとした環境性能の高い建築を実現することができる。軒の出の深い水平感のある伸びやかな外観は、一見、木造建築にはとても見えないが、時代が求める建築は木造の復権がその一翼を担っていることを確信している。

事業主体: S 歯科診療所
 施設用途: 歯科医院
 建築地域: [用途地域]非線引地域 無指定 [防火地域]指定なし
 工期: 2009年2月~2009年6月
 構造: 木造2階建て(木造在来工法)
 規模: [最高高さ]6.72m [軒高]6.49m
 面積: [建築面積]263.8m² [延床面積]361.3m²
 [敷地面積]682.5m²
 外部仕上: [屋根]ガルバリウム鋼板立ハゼ葺き
 [外壁]セメント系サイディングの上吹付塗材、一部ガルバリウム鋼板立ハゼ葺き [開口部]アルミサッシ
 内部仕上: [床]リノリューム貼り [壁]PBの上EP塗り [天井]PBの上EP塗り
 使用木材: [土台]ヒノキ [柱・梁]県産スギ、一部欧州アカマツ集成
 [下地材]県産スギ
 設計: (有)青山建築計画事務所
 施工: 平野工務店(株)



多目的ホール



玄関ホール



外観

魚津市郊外の農山村地域を対象としたコミュニティ施設として計画された施設。話題性のある建物によって地域の活気や活力につなげたいとする地域住民の要望を受けて、計画地周辺で育ったスギを伐採し地域の製材所で加工したものだけを使って、スギの無垢材の良さを生かした建物を建築することになった。大空間を持つ多目的ホールは、柱のような角材を横に繋いだフレームを交互に掛けたアーチ構造。中規模な部屋が連続する研修棟は地域材の加工可能な断面と長さの範囲内で伝統的な構法を駆使した持ち出し桁構法でデザインされている。

事業主体：魚津市
 施設用途：多目的ホール・研修施設
 建築地域：[用途地域]指定なし [防火地域]指定なし
 [所在地]富山県魚津市下樁地内
 工期：2007年6月～2008年3月
 構造：木造平屋建て一部鉄筋コンクリート造
 規模：[最高高]12.68m [軒高]7.63m
 面積：[建築面積]1,060m² [延床面積]1,012m²
 [敷地面積]2,766m²
 外部仕上：[屋根]耐摩カラーGL鋼板 t=0.4 横平葺 [外壁]スギ板張 t=15 木材保護塗料塗 [開口部]アルミサッシュ
 内部仕上：[床]ナラ複合フローリング t=15 [腰壁]スギ板張 t=12 [壁]石膏ボードAEP塗 [天井]石膏ボード AEP塗
 使用木材：スギ(345m³)ヒノキ(3m³)集成材(5m³)
 設計：(有)建築科学研究所
 施工：谷口建設(株)



外観(夜景)



外観(東南)



研修室

農産物加工品の開発や加工体験、さまざまなイベントなどを通して中山間地域の活性化と情報発信の役割を担う施設。木造とすることを前提として計画された。県内産木材を使用した木架構による比較的広い空間を実現するため、小径材をアーチ型状に編み組んだ木質フレーム(立山フレーム)を提案している。これにより、無垢材の良さを生かした軽やかで開放的な空間を創出することができた。



事業主体：富山県
 施設用途：研修施設
 建築地域：[用途地域]指定なし [防火地域]指定なし
 工期：2005年12月～2006年12月
 構造：木造平屋建て(メインに立山フレーム使用)一部RC造
 規模：[建築高]7.62m [軒高]6.00m
 面積：[建築面積]633.60m² [延床面積] 589.68m²
 [敷地面積]3,325.34m²
 外部仕上：[屋根]カラー鋼板嵌合式立平葺き [外壁]目透かし下見板張り 木材保護着色塗装 [開口部]アルミ建具
 内部仕上：[床]セメント系セルフベリング下地ビニールシート敷き [腰]合決り羽目板張り 木材保護着色塗装 [壁]石膏ボードt12.5目地なし EP [天井]石膏ボードt 9.5目地なし EP
 使用木材：スギ材(県産材)構造材98.7m³、下地材27.5m³、土台(アテ)5.4m³
 設計：富山県建築設計監理協同組合(担当：(株)おのみ設計)
 施工：新栄建設(株)
 木材供給：婦負森林組合



外観、主棟左側に囲炉裏棟



食堂・研修室



宿泊室

従来の施設は鉄筋コンクリート造であったが、冬季間の凍結や漏水などの雪害に悩まされたことなどから、建替えにあたり木造での建築が構想された。高所・豪雪地(標高1,000m、最深積雪4.13m、平均積雪3.22m)での計画であることから、大規模木造建築に造詣の深い有識者に指導を仰ぎ設計されたものである。先駆的工法を駆使し、県内産のスギやヒノキを、無垢材または集成材に加工し、木の持ち味を生かした建物となった。特に、雪解けの頃には軒先1mあたり約1.0tの沈降圧と推定されるため、その部分に木材を用いることに熟慮した。

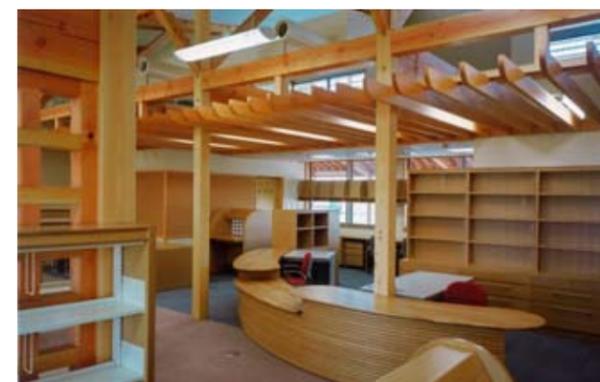
事業主体: 富山県
 施設用途: 社会教育施設(研修、宿泊)
 建築地域: [用途地域]指定なし
 工期: 2003年5月~2004年9月
 構造: 木造二階建(県産材)
 規模: [建築高さ]9.82m [軒高さ]6.895m
 面積: [建築面積]690.82m² [延床面積]860.59m²
 [敷地面積]7,778.80m²
 外部仕上: [屋根]カラー鉄板AT葺き [外壁]スギ板t=24mm
 [開口部]アルミサッシ、木製サッシ
 内部仕上: [床]スギ板圧密t=30加工 [腰壁]スギ板t=15、ケイサンカルシウム板、珪藻土 [壁]ケイサンカルシウム板、珪藻土 [天井]ケイサンカルシウム板EP塗り
 使用材料: 富山県産材(スギ、ヒノキ)
 設計: [基本計画]日本住宅・木材技術センター(有峰ハウス整備委員会・委員長 三井所清典) [設計]富山県建築設計監理協同組合(担当: 菅建築設計事務所)
 施工: 新栄建設(株)
 木材供給: 富山県森林組合連合会



外観



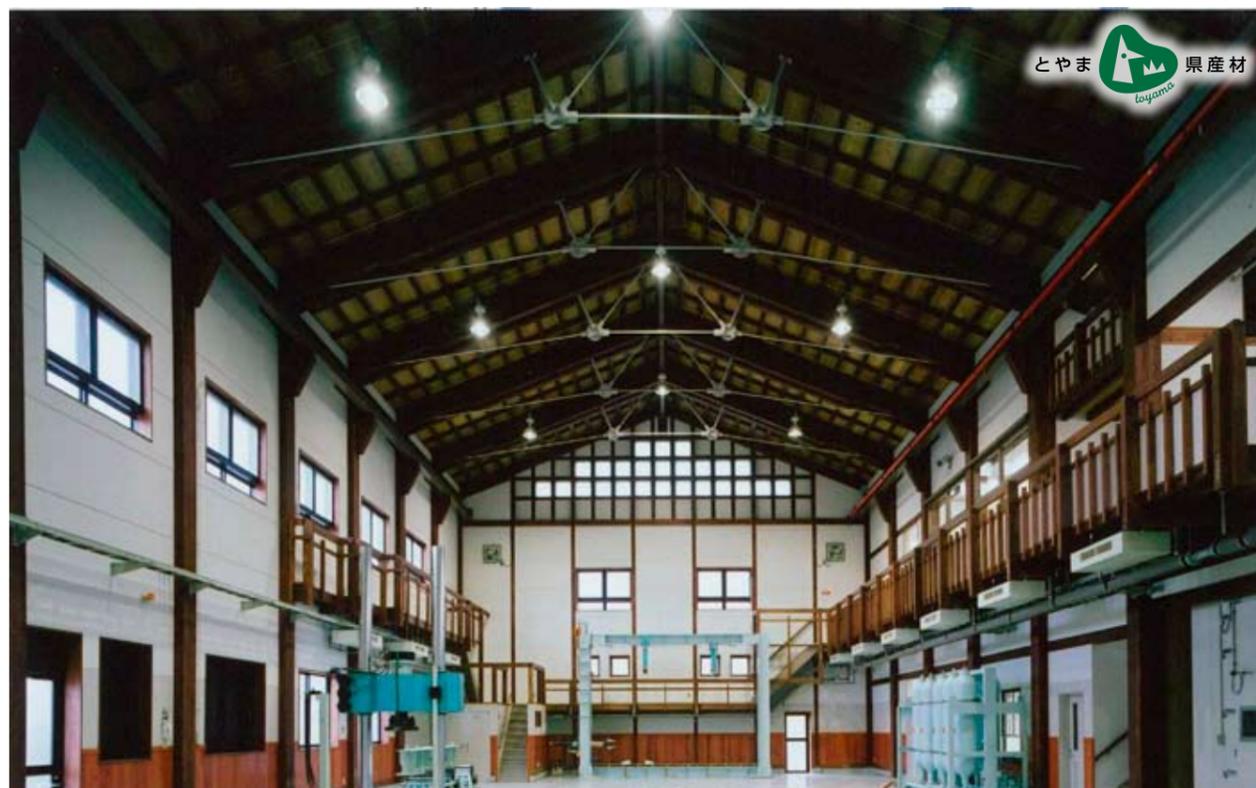
雁木のある回廊



図書室

建物は、富山の家らしい前庭のある「自然」のたたずまいをイメージし、コミュニティ施設群の結び目となる「地域の玄関」としての配置となっている。「集まる」「つなぐ」「安心できる」仕掛けを設計のコンセプトとし、シンプルでダイナミックな屋根形状によって平坦な地平に屹立する立山連峰の「やまなみ」を表現した。大きな屋根の一体感、大断面集成材による柱と梁の力強い構造、楕円の集会室、内部と外部を連続的に繋ぐ「雁木」や半屋外的なデッキテラス、見通しが良くオープンなプラン、立山連峰へ大きく開いた眺望が特色である。

事業主体: 射水市(旧下村)
 施設用途: 図書館・児童館(多目的交流施設)
 建築地域: [用途地域]都市計画区域内 市街化調整区域
 [防火地域]指定なし
 工期: 2002年04月~2003年06月
 構造: 木造・鉄骨造1階建て
 規模: [建築高]9.45m [軒高]9.0m
 面積: [建築面積]1,256.59m² [延床面積]1,010.35m²
 [敷地面積]4,082.92m²
 外部仕上: [屋根]ア0.4二重巻きはげ立平葺 [外壁]リプラスモルタル下地 弾性リシン吹付 [開口部]アルミサッシ
 内部仕上: [床]t15床暖房用無垢フローリング直貼 [腰壁]t12ヒノキ(特一等)縁甲板本実縦張、カラークリア [壁]t12.5PB(V)、クロスAA級、[天井]t9.5PB+t9岩綿吸音板
 使用木材: ヒノキ材、ハイマツ材、カバザクラ材
 設計: (株) 福見建築設計事務所
 施工: 日本海建興(株)
 木材供給: 小池木材(株)



木質構造試験棟(内部)



外観



エントランス



性能評価試験棟(内部)

昭和44年に開設された本研究所は、木材の加工・利用技術、安全で快適な木質居住環境、木質資源の循環利用などを研究対象とする木材の総合的研究機関。試験施設の老朽化にともない建て替えを検討した際に、施設全体の見直しを行ない、木材研究所としてふさわしい3棟の木造の試験棟に機能を集約して再構築が行なわれた。3つの試験棟はそれぞれ独自の用途にあった構造形式と建築的特性を持つ建物でありながら中庭を囲んで回廊で繋ぎ、外壁や屋根の素材や色を統一することで全体として調和のとれたデザインとなっている。

事業主体: 富山県
 施設用途: 研究施設
 建築地域: [用途地域]指定なし [防火地域]指定なし
 [所在地]富山県射水市黒河新4940
 工期: 2004年8月~2007年3月
 構造: 木造2階建
 規模: [最高高]11.95m [軒高]8.95m
 面積: [建築面積]3,146m² [延床面積]3,684m²
 [敷地面積]2,766m²
 外部仕上: [屋根]耐摩カラーGL鋼板 t=0.4 段葺 [外壁]スギ板張 t=15 木材保護塗料塗 [開口部]アルミサッシュ
 内部仕上: [床]長尺塩ビシート張 [壁]石膏ボードAEP塗 [天井]ケイカル板 AEP塗
 使用木材: グフリカカラマツ集成材
 設計: 富山県建築設計監理協同組合 [総合計画・外構設計](有) 建築科学研究所 [性能評価試験棟](有) 建築科学研究所 [製品開発試験棟](株)三四五建築研究所 [木質構造試験棟](株)GA開発研究所
 施工: [性能評価試験棟]くみあい建設(株) [製品開発試験棟]川田工業(株) [木質構造試験棟]高田建設(株)



事務室



ホール

立山山麓の豊かな森林資源を用い、地域材を活かし、地域に根ざした建物となるよう計画された施設。地域の森林組合員の協力により、富山県の県木であるタテヤマスギをはじめ、ブナ、ナラ、クリ、ヒノキ、アテ、ケヤキといった地域材を外装材、内装材として適材適所にふんだんに使い、各室でフローリングの素材を変えて使用したり、玄関建具や化粧材などにも地域材を使用するなど、目に触れるところや、手や足の触れるところの大部分に地域材をふんだんに用いている。さらに使用する備品もサクラ材で特注し製作するなど、こだわりを見せている。

事業主体: 立山山麓森林組合
 施設用途: 事務所
 建築地域: [用途地域]指定なし [防火地域]指定なし
 工期: 2000年2月~2001年1月
 構造: 木造1階建て(大断面集成材LFJ構法+トラス工法)
 (大断面集成材LFJ→ラージ・フィンガー・ジョイント構法)
 規模: [建築高]7,876.4m [軒高]7,140.5m
 面積: [建築面積]791.07m² [延床面積]718.63m²
 [敷地面積]5,190.0m²
 外部仕上: [屋根]地方産 日本瓦葺 [外壁]スギ板t15mm押縁下見板張 [腰壁]スギ板t18mm縦羽目板張 [開口部]アルミ建具
 内部仕上: [床]スギ・ブナ・ナラ・クリ・ヒノキ フローリングt30mm [腰壁]スギ板 縦張 合いじゃくり目透かし加工一部 ヒノキ 120φ半割 [壁]PB貼+塗装仕上げ [天井]スギ板 合いじゃくり目透かし張
 使用木材: [構造材]ベイマツ集成材 [仕上材]タテヤマスギ、クリ、ナラ、ケヤキ、ブナ
 設計: (株)押田建築設計事務所
 施工: 新栄建設・上田工務店 共同企業体
 木材供給: 立山山麓森林組合



城端南部団地外観／写真上：玄関側より、写真下：背面より



玄関の吹き抜け



正面東側より

南砺市城端郊外の集落に隣接し計画された市営住宅である。既存集落との調和に配慮し、また今後周辺に建ち並んでいく住宅のモデルとなることを目指した。周囲の山並みを借景とした城端らしさの感じられる伝統的な住宅を強く意識し、瓦屋根とし、軒下を大きく確保した戸建スタイルの7棟14戸の住宅をあずまやを囲むようにコの字型に配置している。また、木材を構造材以外にも積極的に用いることとし、軒下の外壁部分や内部の天井材など、入居者にとっても温かみの感じられる住まいとしている。

事業主体：南砺市(旧城端町)
 施設用途：公営住宅(7棟14戸)
 建築地域：[用途地域]第一種中高層住居専用地域
 [防火地域]指定なし
 工期：2004年6月～2005年3月
 構造：木造平屋建て(5棟)、2階建て(2棟)(在来軸組工法)
 規模：平屋建て[建築高]5.80m [軒高]3.40m 2階建て[建築高]7.25m [軒高]6.00m
 面積：[建築面積]947.75m² [延床面積]913.72m²
 [敷地面積]3,462.41m²
 外部仕上：[屋根]瓦葺き [外壁]可とう形外装薄塗材E吹付仕上、窯業系サイディング下地一部、スギ縦羽目板本実目透し張り [開口部]アルミサッシ
 内部仕上：[床]フローリング張り [壁]内装用薄塗材E吹付 ゆず肌 [天井]化粧石膏ボード張り、スギ板本実目透し張り
 使用木材：スギ、ヒノキ、ベイマツ
 設計：(株)創建築事務所
 施工：[1期工事]坂井工務店(3棟) [2期工事]盛田工務店(4棟)



外観



外観



外観

下村(現射水市)の恵まれた自然環境や文化を保持・継承し、安らぎとうるおいある村営住宅となるよう、地場産材のスギを使った木造住宅団地として計画されたものである。地区のシンボルである「賀茂神社」を核とする下村に根ざした独自性と魅力ある持続可能な地域づくりを強く意識し、路地や辻といった既成集落の特徴を引用し、路地空間を配することにより「ブロック」「団地」「地域」の各コミュニティ間の活性化と一体感が出てくることを意図し設計されている。

事業主体：射水市(旧下村)
 施設用途：公営住宅(4棟)
 建築地域：[用途地域]指定なし [防火地域]指定なし
 工期：[設計]2002年3月11日～2002年3月25日
 構造：木造平屋建て(1棟)、木造2階建て(3棟)
 規模：平屋建て[建築高]5.66m [軒高]4.75m
 2階建て[建築高]7.37m [軒高]5.55m
 面積：[建築面積]304.47m² [延床面積]647.74m²
 [敷地面積]820.15m²
 外部仕上：[屋根]日本瓦葺き、構造用合板下地 [外壁]仕上げ塗リラスモルタルt20下地 スギ下見板張りt18、シージンぐボードt12下地 [開口部]アルミサッシ
 内部仕上：[天井]石膏ボードt9.5下地、ビニールクロス貼り [壁]石膏ボードt12.5下地 ビニールクロス貼り、腰板 ナラ無垢材t9塗装品 [床]ナラ無垢板フローリングt15塗装品 構造用合板捨て張り
 使用木材：スギ、ナラ
 設計：富山県建築設計監理協同組合(担当：(株)中川建築設計事務所)
 施工：[第1工区]牧田組 [第2工区]北海工業

公共建築の木造化を進める際には、建築に関する知識ばかりではなく、わが国の森林や林業の実情、木材の性質や木造建築の文化や歴史など、多分野の知識が必要となる。ここでは、その入門段階において参考となる図書を選んで紹介する。

木造建築のすすめ

なぜいま木の建築なのか

有馬孝禮／学芸出版社

持続可能な生物資源＝木材を利用する木造建築は、温室効果ガスの排出抑制や都市における新たな炭素貯蔵の道を開く可能性を有している。

木材なんでも小事典

木質科学研究所木悠会／講談社

生体材料としての木材の秘密から、文化、歴史、さらには最先端利用技術まで、古くて新しい素材＝木材の最新知識 77 を収録。

木造建築を見直す

坂本功／岩波書店

文化財建築に見られる伝統の技と補強技術、現代木造住宅の優れたポイント、世界の構法などを紹介しながら、木造建築の魅力と課題を考える。

ここまでできる 木造建築のすすめ (第3版)

一般社団法人 木を活かす建築推進協議会
中・大規模の木造建築物の実例を用途別に紹介。「木造と防火」「構造設計・構造計算」についてもわかりやすく解説している。

図解 建築現場用語辞典

渡辺光良／ナツメ社

設計者、施工者とのコミュニケーションを図る上で欠かせない専門用語や建築現場で使われる慣用的用語（職人言葉）を図解とともに紹介。

木造建築のすすめ

写真で見える「木」の施設

木材利用推進中央協議会

木材利用推進・需要拡大を目的に開催される「木材利用優秀施設コンクール」（木材利用推進中央協議会主催）への応募作品・事例を紹介。

早わかり木の学校

文部科学省

木の活用を検討・実施する際の課題解決の留意点などを、木を活用する効果や意義、計画・設計、木の確保、行政面などの様々な観点から解説。

こうやって作る木の学校

文部科学省

学校の木材利用の進め方やコスト抑制方策を中心に、そのポイントや、工夫した取り組みの事例等を取りまとめた事例集。

木造の教育施設

建築資料研究社

木造校舎のもたらす教育的効果／木造建築事情管見／木造建築が「あたりまえ」になるには／木造で火事に強い建築をつくる／など。

木造の医療・保健・福祉施設

建築資料研究社

病者や高齢者・障害者・子どもなどには木の空間が望ましいという観点から、これらの人たちのための施設に木を用いることを提唱する。

木造建築のすすめ

公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律

木造建築のすすめ

木造建築のすすめ